

令和5年度 功 勞 賞 受 賞 者

(市町村スポーツ協会推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
1	おさま てつや 小座間 哲也	平成23年 4月～令和 3年 3月 天童市スポーツ協会 副会長 令和 3年 4月～ 5年 3月 天童市スポーツ協会 会長	天童市 スポーツ協会	天童市スポーツ協会会長2年、副会長として10年の12年間の役職を歴任され、県スポーツ協会及び天童市との連携を図りながら当協会の事業運営、地域スポーツの振興・推進に多大なる貢献をした。明朗快活かつおおらかな性格であり、誠実に実践的な取り組みをされ、多くの方々から信頼を得ている。
2	いとう としえ 伊藤 としえ	平成23年 4月～令和 5年 3月 天童市スポーツ協会 副会長	天童市 スポーツ協会	天童市スポーツ協会の副会長として12年間役職を歴任され、歴代会長と密に連携を図りながら当協会の事業運営、地域スポーツの振興・推進に多大なる貢献をした。明朗かつ温厚な性格であり、誠実に実践的な取り組みをされ、多くの方々から信頼を得ている。
3	えんどう まさゆき 遠藤 正幸	平成19年 5月～27年 5月 寒河江市体育協会 副会長 平成27年 5月～29年 4月 寒河江市体育協会 会長 平成29年 4月～令和 3年 5月 (一社)寒河江市体育協会代表理事・会長 令和 3年 5月～ 5年 5月 (一社)寒河江市スポーツ協会代表理事・会長	寒河江市 スポーツ協会	平成19年から令和5年まで、16年にわたり寒河江市体育協会(後にスポーツ協会へ名称変更)副会長、会長の要職を務められ、地域におけるスポーツの振興・発展に尽力された。特に、平成29年には法人化を成し遂げるなど、協会組織の強化と円滑な運営を果たされた功績は大である。

(競技団体推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
4	みやうち さとる 宮内 悟	平成 4年 4月～現在 山形陸上競技協会 強化コーチ 平成27年 4月～現在 (一財)山形陸上競技協会 常務理事	山形 陸上競技 協会	平成4年にJSPO公認陸上競技コーチ3(旧日体協公認コーチ)、平成10年にJSPO公認陸上競技コーチ4(旧日体協上級コーチ)を取得し、32年間にわたり、山形陸上競技協会強化コーチとして陸上競技の普及・育成に携わっている。また、山形陸上競技協会においては、常任理事として長年にわたり陸上競技の普及・振興、特に新規指導資格取得者の養成に尽力し、県陸上競技界の発展に寄与している。
5	きむら じゅんいち 木村 潤一	平成 7年 4月～31年 4月 山形県水泳連盟 水球副委員長 令和元年 5月～現在 (一社)山形県水泳連盟 理事 平成 7年 4月～現在 山形市水泳連盟 水球委員長	山形県 水泳連盟	永年にわたり、水泳・水球指導に携わり、国民体育大会の優勝など各種全国大会でチームを上位入賞に導いた。また、中学校の部活動指導において水泳部顧問として全国、東北大会に出場する選手の育成に尽力するなど、水泳・水球競技の普及にも大きく貢献してきた。特に、平成4年本県開催のべにばな国体において、水球山形県少年男子チームのコーチとして優勝。全国ジュニアオリンピックカップ水球競技の監督として中学男子3回、中学女子5回優勝。世界選手権や東京五輪代表選手(長沼敦、鈴木透生、曲山紫乃、三浦里佳子、細谷香奈、鈴木琴莉、井上萌々、後藤清香)を発掘・育成した。
6	すとう まさひこ 須藤 正彦	平成 2年 4月～現在 山形県体操協会 体操競技男子技術委員会委員 平成25年 4月～令和 3年 3月 山形県体操協会 副理事長 令和 3年 4月～現在 山形県体操協会 副会長 平成25年 4月～令和 3年 3月 山形県中体連 体操競技専門委員長	山形県 体操協会	永年にわたり、本県体操協会理事長、県中体連専門委員長を歴任し、また、体操競技男子技術委員として「べにばな国体」及び全国大会等各種大会の運営に尽力した。現在は、山形県体操協会副会長として、協会の運営、体操競技の普及・発展に貢献している。昭和60年4月から令和4年3月まで、小中高の教諭として、男女体操競技の指導者と多くの選手の育成並びに各種大会の運営に尽力し、現在も米沢二中体操クラブの指導者としてジュニア選手の指導育成を行っている。
7	たけだ さとる 武田 悟	平成 4年 4月～10年 3月 山形県卓球協会 理事 平成10年 4月～12年 3月 山形県卓球協会 評議員 平成14年 4月～22年 3月 山形県卓球協会 評議員 平成22年 4月～23年 3月 山形県卓球協会 理事 平成23年 4月～現在 山形県卓球協会 副会長 平成23年 4月～24年 3月 県高体連卓球専門部長	山形県 卓球協会	山形県卓球協会役員として長年にわたり、卓球界の普及、発展、競技力の向上を目指し活躍した。卓球技術の指導には特筆するものがあり、多くの選手をインターハイ、国体出場に導いた。特に副会長在任期間中、平成26年には全国ホープス選抜卓球大会、平成28年には全国ろうあ者卓球大会、平成29年には全国中学選抜卓球大会、平成30年には日本リーグ(後期)、今年度開催の全国高校選抜卓球大会においても、中心的役割を担った。県高体連部長、県卓球協会副会長として、多くの全国大会、東北大会を開催するなど、協会役員の先頭に立って大会を成功に導いた功績、大会運営での活躍は顕著である。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
8	そがわ としかず 曾川 利和	昭和53年4月～現在 山形県野球連盟 審判員 平成11年4月～25年3月 山形県野球連盟 副審判部長 平成25年4月～31年3月 山形県野球連盟 理事 平成31年4月～現在 山形県野球連盟 副会長 平成3年4月～11年3月 鶴岡地区野球連盟 副審判部長・理事 平成11年4月～25年3月 鶴岡地区野球連盟 審判部長 平成25年4月～31年3月 鶴岡地区野球連盟 副会長 平成31年4月～現在 鶴岡地区野球連盟 会長	山形県 野球連盟	昭和53年に審判の資格取得後、山形県野球連盟審判員として、スポーツ少年団、中学校、高等学校、社会人野球の各種大会の審判部員の立場から、大会・競技運営に積極的に参画し、青少年の心身の健全育成に努めた。また、昭和58年からは、藤島中学校、現在は羽黒中学校の野球部コーチとして長きにわたり指導を行い、地域の子どもの健全育成に特に尽力した。平成3年から鶴岡地区連盟副審判部長、平成11年から鶴岡地区連盟審判部長・山形県野球連盟副審判部長並びに常任理事として、後進審判員の育成のために尽力するとともに、平成31年4月には鶴岡地区野球連盟会長及び県連盟副会長に就任し、鶴岡地区及び山形県の野球振興と野球界の発展に努めた功績は大きい。
9	いとう けん 伊藤 憲	平成7年4月～18年3月 山形県ソフトボール協会 記録委員会委員 平成18年4月～27年3月 山形県ソフトボール協会 記録委員会副委員長 平成30年4月～現在 山形県ソフトボール協会 理事	山形県 ソフトボール 協会	昭和53年に公認審判員となり、その後平成3年に公式記録員の資格取得後、主に公式記録員として南東北インターハイ等の全国大会や各種大会で活躍している。記録委員会の指導者としても、後進の指導や技術の向上に大きく貢献している。また、県協会理事や最北地区協会事務局長として、県並びに地区協会運営に欠かせない人材として活動している。
10	もり ひでお 森 秀雄	平成5年4月～現在 大石田町剣道連盟 会長 平成14年4月～現在 北村山地区剣道連盟 会長 平成14年4月～現在 最北地区剣道連盟 副会長 平成14年4月～30年4月 山形県剣道連盟 評議員	山形県 剣道連盟	昭和51年に大石田町剣道の源流とも言えるスポーツ少年団『大石田誠剣友会』を創設。現在も竹刀を握り後進の育成指導に携わり、地区連盟の要職を歴任し、地区剣道界の発展に大きく貢献した。(剣道教士七段) 永年にわたり、地区の重要な役職を歴任するとともに、青少年の健全育成と指導者の範として後進の指導者育成にも力を入れ、地区剣道界の発展に大きく寄与するとともに、歴史文化に精通し県全域で刀剣の知識伝承の活動も行っている。

令和5年度 功労賞(ライオンズスポーツ賞)受賞者

(競技団体推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
11	しらはた みつる 白幡 光	平成11年 全国中学校大会 男子 水沢・菅原ペア(鶴岡四中) 優勝 平成18年 全国中学校大会 男子団体(鶴岡一中) 優勝 平成25年 東京国体 山形県少年男子 優勝 平成29年 インターハイ 男子団体(羽黒高校) 優勝	山形県 ソフトテニス 連盟	白幡氏は中学校の教諭となり、ソフトテニス部の監督として生徒たちの競技力向上に努め、鶴岡四中では全中個人優勝、鶴岡一中では団体優勝に導いた。その後、羽黒高校に転職され、監督として東京国体で少年男子優勝、平成29年には会津若松市で開催された南東北インターハイで男子団体優勝するなど数々の選手の強化育成を成し遂げられ、山形県スポーツ界に多大なる貢献をされた。